

# 施策評価シート (評価対象年度：平成30年度)

## 1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	4 周産期・小児医療体制の充実	② 施策番号	4204
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	2 みんなが健やかで、みんなが助け合うまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	1 子どもと大人が夢や希望を持ち、ともに成長できるまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	1 子どもと親の健康づくりの推進		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
健康福祉部	保健推進課		

## 2. 施策の現状把握

### 〔1〕施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	妊婦及び新生児(周産期は、原則として妊娠22週から出生後7日未満)
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	質の高い医療ケアを提供することで、普通分娩をはじめ、ハイリスク分娩・未熟児にも対応し、安心・安全な分娩ができる。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	産婦人科医の不足をふまえ、産科機能をもつ医療機関の広域化・集約化を目的として、平成20年にりんくう総合医療センターと市立貝塚病院の産婦人科部門を統合し、泉州広域母子医療センターとして運用を開始した。

### 〔2〕施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 市民の出生のうち、泉州広域母子医療センターで出産した人の割合 計算式：泉州広域母子医療センターの市民の出生数÷全出生数×100	%	市民の利用割合がどれくらいあるかを把握することが、必要性・重要度につながる指標となる。
② 計算式	%	
③ 計算式		

指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考
① 市民の出生数のうち、泉州広域母子医療センターで出産した人の割合	%	目標値	27	27	27	27	27
		実績値	28	23	26	—	—
		達成率	103.3%	86.7%	95.2%		
②		目標値					
		実績値					
		達成率					
③		目標値					
		実績値					
		達成率					

### 〔3〕施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価		今後の方針
1	泉州広域母子医療センター運営補助事業	出生数	人	102	109	—	13,672	13,285	17,079	A	ア	◎
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	1						13,672	13,285	17,079			

### 3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	安心・安全な分娩を確保することは、子どもと親の健康づくりの推進につながる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	市内に分娩を取り扱う医療機関がないため、市内の出生数が多いほど、市民のニーズがあると判断できる。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	市内に分娩を取り扱う医療機関がないため、市民の分娩場所を確保し、早産・多胎出産、妊娠糖尿病等のハイリスク分娩にも迅速に対応できることが必要である。また、産婦人科医の不足等により、貝塚市以南の4市3町の広域で継続して取り組むことが重要である。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	泉州広域母子医療センター運営補助事業そのものが、周産期医療を支える一つの重要な事業であり、適正な事業と判断する。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	若年妊娠等のハイリスク妊娠及び飛び込み出産に対応できる、専門性の高い医療機関の確保が必要であり、今後ますますニーズが高まり、この事業の重点化が必要である。

### 4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	泉州広域母子医療センターは、赤字決算ではあるが、ハイリスク分娩などの困難事例、夜間救急対応を含め365日24時間の受け入れ体制が整備されている。不採算の部分ではあるが、地域の安心・安全な産科医療を継続するために、4市3町の連携支援が必須である。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

### 5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	泉州広域母子医療センター連絡会で決算及び経営指標等で、取り組む課題が出てきた場合は、4市3町で改善に向けて取り組む。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	りんくう総合医療センターは、地域周産期母子医療センターに指定されている。単年度ごとにでてきた課題に広域で取り組む。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	大阪府の第7次大阪府医療計画(2018年度~2023年度)では、周産期医療を担う人材の確保が重要だとされている。泉州広域母子医療センター運営協議会及び連絡会議において、大阪大学・医師会・大阪府・各市町等が泉州地域の周産期医療体制、安心安全な母子医療について協議・調整を実施し、現在の体制を継続する必要がある。

### 6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	市民の出生数のうち泉州広域母子医療センターで出産した人の割合が約25%と周産期・小児医療体制の提供が適切に行われている。 今後も周産期医療を支える重要な事業として、広域団体間、関係各機関との連携を進められたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある